

Educo

地球時代の教育情報誌 **エデュコ**

No.18

2009年 冬

2 巻頭インタビュー

作曲家

池辺 晋一郎さん

4 知っておきたい教育 NOW

移行措置とともに学校づくりを
寺崎 千秋

学校・教育委員会の保護者対応
藤井 千恵子

8 世界きょういく見聞録

子ども一人ひとりを大切にするフィンランド
実川 元子

10 地球となかよしトピックス

農園がつなぐ子ども・学校・地域
横浜市立山元小学校

12 インフォメーション 北から南から

14 地球となかよしメッセージ 2008 入賞作品発表

18 地球となかよしゼミナール

日本を知り、世界を知り、平和に通じる心の育成を
堀内 一男

19 コラム いまどき子ども事情

格差社会で「がんばる」意味
香山 リカ

20 ほっとな出会い

理数体感型ミュージアム「リスーピア」館長

下野 隆二さん



池辺 晋一郎さん（作曲家）

自分を表現していく

喜び、楽しさをわかってほしい



PROFILE

池辺 晋一郎

1943年茨城県生まれ。都立新宿高校、東京芸術大学卒、同大学院修了。現在、東京音楽大学教授。東京オペラシティ・ミュージックディレクター、横浜みなとみらいホール館長ほか多くの施設や団体、コンクールの委員などを務める。著書に「おもしろく学ぶ楽典」「モーツァルトの音符たち」等。NHK「N響アワー」にレギュラー出演。

学校で、音楽の授業に乗り気でない子どももいるそうです。

学校の「音楽」は、従来からちよつと堅苦しいですね。例えば、楽器を習うのは大変だと思いがちですけど、本当は何だつて楽器になるんですよ。僕は子どものころ、両方の足の親指に輪ゴムをひっかけて、弾いて遊んでいました。輪ゴムが伸び縮みすると音が変わるんですが、それも楽器。そういうふうには、子どもたちが自分たちで思うように楽器をつくってみる。子どもつて大胆で、思いもつかないような発想をするんです。音は世の中にあふれているわけだから、その音を聞くだけでなくて、自分でつくり出してみる。音を出すおもしろさを体で感じる。こういうことから、音楽に興味をもつようになると思います。権威のある人がつくつたものや理論が音楽なんじゃ

なくて、音楽というのは、その辺に転がっているものである、ということから始めなきゃいけないと思つています。

歌つたり発表したりするのが恥ずかしいと思つている子どもも多いようです。

理屈じゃない、というのは音楽だけじゃなくて、例えば詩をつくるというたこともそうです。僕は80年代のある子どもたちの詩で合唱曲をかいたことがあります。みんな、どんな詩を書くんです。およそ大人では想像も創造もできないようなものですよ。例えば、「山は愛です。うぐいすが恋人を探してなかよく飛んでいくけん、愛です」。子どもたちは寮生活をしていて、長い休みのときだけうちへ帰るんですが、「おうちと学校は長いかくれんぼです。春

休みや冬休みや夏休みに見つかります」。五つの子の詩で、これはたぶん口述だと思つんですが、一行だけ「ひでみとぼくはおもいで」と。これらのすばらしい詩を見て、曲をつくる意欲がすこくわきましたね。

子どもたちの詩は、理屈とか知性とか、そういうことには関係なく、感覚です。いや、感覚以前の、生理です。生理と直接言葉が結びついている。音楽もそうで、人間の生理と音が直接結びついているというのを具現化できるのは、子どもしかいないと思つんですよ。それを引き出してやつたら、音楽が楽しくないなんてありえないと思つているんです。

何かを表現する喜びをいろんなところで覚えていけば、歌うこともそこに組み込まれるはずですよ。今の子どもたちつて、評価されようとして構えてしまう。子どもを管理するの

ではなくて、大人も一緒になつて、遊ぶ雰囲気、楽しむ雰囲気をつつてあげれば、楽しくないことはありませんと思つています。

表現したことに対して、大人が大人の耳で判断しちゃうとつまらない。表現する楽しさ、喜びといったことを、どうやってふだんの授業の中に取り込んでいくかが大事だと思う。音楽だけを切り離さないで、身体表現とか、あるいは作文で自己主張するとか、そういうことを全部ひっくるめて一連のつながりとして、自分を表現していく喜びを、子どもにわかつてほしいということです。

音楽指導で子どもに接することも多いと思つますが、今の子どもたちについて、何かお気づきのことは。

僕は子ども時代、もちろん音楽はすこく好きでしたが、もう一つ好き

だったのが地図を描くこと。小学校の終わりまで茨城県の水戸にいたんですけど、小さい水戸市が将来大百万都市になる想像地図を毎日毎日描いていました。現実にある地名を使って、区制が敷かれて地下鉄網ができ、環状線も走って、港もあって空港もあって——という地図をね。今は忙しくて、地図を描いている暇がないんですよ。でも地理は好きですから、部屋をチリだらけにしているんですけどね（笑）。

そのころを思い出すと、幸せだったけど、無知だったなあ。都市の中に空港があったら騒音公害があるだろう、大工場群が都市に隣接していると大気汚染とかが問題になるかもしれない、なんて知らなかったわけです。だから、幸せに好きなように描けた。ところが、今の子どもはそういう知識を大抵もっている。そうするといういろいろ現実を考えちゃって、自由に描けない。考えるというのほもちろん正しいことではあるけれども、自由に未来が想像できないというのは、ちょっとかわいそうだな……。

僕は、子どもに未来を自由に想像できるようにしてあげるのが、今の大人の責任じゃないかなと思うんです。音楽でも地図でも詩でも、自由に感じて、自由に表現していい、と

いうことを伝えてあげないといけないんじゃないかと。

また、今の世の中の、効率重視、経済優先の傾向というのを崩していかなくちやだめだと思っています。お金を得ることは確かに大事だけど、問題は、経済というのは目的語にならないということです。どんなに経済が大発展しても、それで終わりにはならない。経済がよくなるのは、何かのためなんです。

その何かを考えることが大事なんですが、最近、子どもたちが将来を考えると、この道だったらお金がたくさん稼げるからという風潮もあるようです。でも問題は、お金が得られて何をやるかなんです。その子その子にに応じて、その「何か」を探すきっかけを与えてあげるのが学校の役目だと思います。もちろんお金を得るために進路を考えることも大事だろうけども、最も大切なのは、もう一つ、そこでおしまいじゃないんだということも教えてあげることだと思います。それによって人間のあり方というのは変わってくるんじゃないでしょうか。

学校は、子どもたちにどのよう向き合うのがいいでしょうか。

僕は、何かができる子、得意な子を伸ばすことはとても大事だと思う

ているんですが、大人は、何事も問題が起きないように、学校の責任にならないようにと、できる子は学校で目立たないようにならしてしまいう。子どももいじめられるからと、皆と同じでないことを怖がる。そうじゃなくて、自然に起きる問題は起きていい。今の時代、あまりに学校が責任と義務を負いすぎているんじゃないかと思えます。何かあると学校の責任になる。親もそれを求める。それはおかしいと思うし、そういう風潮は長続きしないと信じています。

だから、誰々ちゃんはピアノが得意、誰々君は走るのが速い、でいいと思うんですよ。そういうことが自由に行われないと、学校は、だんだん閉塞状況になっていくと思うんです。みんなそれぞれ何かある。それを消すのではなく、それぞれの何かを見つけないと、このほうが大事ですよ。

人間の感覚を一面だけ見るんじゃないで、ちよつと角度を変える。この子は歌が下手だから、勉強が不得意だからダメなんだじゃなくて、何かこの子ができることを探してあげる、得意な面を引き出すという、そっこのほうが、学校にとってはすごく責任あることだと思うんです。

学校の音楽の授業時数は減少しています。

とても困ったことですね。音楽だけじゃなくて美術にしてもね。衣食住みたいに生活必需なものじゃなくても、影にかくれているものを抹殺しないことって大事だと思うんです。

阪神大震災のとき、あるフルート奏者の楽器ががれきに埋もれてしまった。それを近所の人が探して掘り出したとき、それを奏者が吹くと、みんな集まってきたんだそうです。震災の直後で、その日の生活にさえ困っているときに、音楽が何の役に立つかと思われがちですよ。実は役に立つんですよ。心が潤ったり、生きてなきやと思ったり、何かしなきやと思ったりさせるのは音楽なんです。音楽に限らず、芸術はそういう力を持っている。科学的に音楽のどの部分が生きる力を与えるかなんて検証はできないと思うけれども、そういうものなんです。大変なときに、今は音楽どころじゃないだろう、というのは、まちがいなんです。

芸術系の教科が消えたときに初めて、大変だということにきつと気づくだろうと思うんです。消える前にそのことを考えるのが、教育や政治のおおもとなのではないかと思っています。



新学習指導要領 移行措置

移行措置とともに 学校づくりを



財団法人 教育調査研究所
寺崎 千秋

移行措置についての理解を徹底する

学習指導要領の改訂に基づく新教育課程を円滑に実施するため、新しく追加された内容や取り扱う学年が変わった内容について、実施の時期を前倒ししたり、道徳等を全面実施したりなどの「移行措置」が実施される。その期間は、小学校が平成21年～22年の2年間、中学校が23年までの3年間でを行うことになっている。次段に示すのはその概要である。

詳しくは文部科学省から移行措置に関する告示が出されているので、これを十分に理解し、子どもたちに確実に指導することが必要である。また、各教科等の移行措置の詳細な内容を把握して、移行期間中の新教育課程の編成、

指導計画の作成を行うようにする。

- 平成20年度中に周知徹底を図り、平成21年度から可能なものは先行して実施
- 総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動は平成21年度から全面实施
- 算数・数学及び理科は教材を整備して先行実施。これに伴い、小学校では、総授業時数を週1コマ増加
- 各教科(算数・数学及び理科を除く)は、学校の判断により、新学習指導要領にやることも可能
- 小学校第5・6年における外国語活動は、各学校の裁量により授業時数を定めて実施することが可能

移行期は学校をつくり変えるチャンス

新教育課程編成に向けての移行期間は、学校を変える最大の機会である。この機会に学校の在り方を見直し、「生きる力」をはぐくむ教育を確実に進められるよう全面的にリニューアルする。移行期間においてどのような新教育課程をどのように編成するかについて、教職員はもちろんのこと、保護者や地域住民とも一体となって進めることが大切である。

① 新たな学校づくりの展望と計画を示す

学校長は、「生きる力」を一人ひとりの子

どもにはぐくむため、どのような学校づくりを進めるかブランドデザインを作成する。それとともに、学校の教育目標を見直す。これまでの教育目標を、確かな学力、豊かな心、健やかな体を要素とする「生きる力」の今日的な視点からその意義を見直すのである。そして、教職員、保護者、地域住民の意見をもとに、向こう5年程度を見通した学校づくりの展望と計画を示す。

② 教育課程編成方針を確立する

教育課程は学校の教育目標を実現するための道筋を示すものである。編成した教育課程に即して、教育活動を意図的、計画的、組織的、継続的、発展的、そして実践的に展開する。学校はどのような教育課程を編成すべきか、その全体構想、方針や重点など確立し、統一性や一貫性のある教育課程編成となるよう教職員が一致協力して取り組むようにする。

③ 授業力を更新し授業で子どもを育てる

教育課程の実施は授業で行われる。授業が変わらなくては教育改革や新教育課程も絵に描いた餅にすぎない。習得・活用・探究などの学習指導や言語活動の充実などが授業レベルで実現するよう指導計画に具体化する。そのため、移行期間の校内研修において、新学習指導要領の趣旨にそった指導計画作成や授業づくりができるように研修する。さらに、教育課程や指導計画に即した授業が実際に積み重ねられるよう、週案に計画・実践・評価・

改善を記録する。こうして、全校で確実に教師の授業力の更新を図るようにする。

④教育課程編成方針を確立する

学期ごとや教育活動の節目となる主な行事ごとなどに形成的に教育課程の評価を行い、その結果からすぐに改善すべき事項や改善できる事項を編成し直すなど、継続的に教育課程を改善する。その積み上げとして、年末から年度末にかけての総括的な学校評価の一環として教育課程の評価を行う。その結果から教育課程のよさについては発展させ、課題については具体的に改善して次年度につなげる。

移行中に教育諸条件の整備を推進する

①教師の力量、学校の組織力、マネジメント力を向上させる

新教育課程を編成し、それを円滑に行うための学校運営を効率的・効果的に進めるのは教師である。教師一人ひとりの力量を高めるとともに、副校長、主幹、指導教諭などの新たな職の導入を生かして校内の組織力を高めることが必要である。また、P・D・C・Aのサイクルを生かしてマネジメント力を高め教育活動や学校運営を向上させていくように取り組むことが必要である。移行期間は、これらの体制を見直し再整備するときである。

②教育環境や教材・教具を整備する

移行措置の実施に伴いながら、新たに必要

な教育環境や教材・教具などを整備しなくてはならない。外部人材の活用、ICT環境の整備、学校図書館の充実、全国学力・学習状況調査の活用、校内の事務処理の簡素化、学校評価の公表、新教材の整備や購入等々、取り組まなくてはならないことが多々ある。教育委員会とも連携しながら予算措置も含めて見通しのある対応が必要である。

③保護者や地域住民への説明を繰り返し行い協力・連携を推進する

「生きる力」の理念の共有を基盤にし、学校評価の自己評価における意見聴取や関係者評価による提言・提案などを、教育課程の編成・実施・評価・改善や、学校運営等の改善に生かすようにする。また、その内容や成果、課題などを繰り返し説明して、今後の協力・連携を強化することが大切である。

移行措置への取り組みチェックポイントの例(小学校)

- 移行措置内容の全容を把握しているか。
- 平成21年度・22年度の各々の算数及び理科などの移行措置の内容を把握しているか。
- 道徳教育の全体計画を作成しているか。
- 道徳の時間の年間指導計画を作成しているか。
- 総合的な学習の時間の道徳教育の全体計画を作成しているか。
- 総合的な学習の時間の年間指導計画を作成しているか。
- 特別活動の全体計画を作成しているか。
- 特別活動の年間指導計画を作成しているか。
- 授業時数を週1コマ増加した日課表を作成しているか。
- 算数及び理科について追加された内容の指導について研修しているか。
- 社会の「47都道府県の名称と位置」の指導を地図帳で指導するよう指導計画に位置づけてあるか。
- 音楽の共通歌唱教材として指導する曲数を指導計画に位置づけてあるか。
- 低学年の体育の授業時数の増加を指導内容とともに指導計画に位置づけてあるか。
- 第5・6学年の外国語活動の導入計画を作成しているか。
- 習得・活用・探究を意図した学習指導に関する研修を実施しているか。
- 言語活動の充実を意図した研修を実施しているか。
- 各教科等の授業における道徳教育の充実を具体化する研修を実施しているか。
- 校内の言語環境を見直し整備しているか。
- 平成23年度全面実施の新教育課程編成の組織が整い、編成の工程表が作成されているか。
- 新教育課程編成・実施に必要な予算が計上されているか。

保護者対応

学校・教育委員会の保護者対応



国士舘大学体育学部
こどもスポーツ教育学科教授
藤井 千恵子

誠実な対応・毅然とした態度

保護者の苦情の多くは、学校への不信感や保護者自身の孤立感・焦燥感などの背景がある。そうした苦情に対しては、まず、保護者の話に耳を傾け、訴えの内容を十分に聞き取ることが大切である。聞き取った内容を吟味して、問題の所在や原因などについて分析し、全体像の把握に努めるようにする。

しかし、場合によっては受け入れることができない理不尽な要求や脅迫めいた言動も想定される。学校や教育委員会は、子どもの教育環境を適切な状態にすることを第一に考え

て、誠実に対応するとともに、毅然とした態度で問題に当たることが必要となる。

東京都教育委員会の調査結果

20年6月に都内の公立の幼稚園、小・中・高・特別支援学校2418校を対象に実態調査を行った。その結果は表1のとおりである。

●「公立学校における学校問題検討委員会」における実態調査の結果等について
(平成20年9月18日発表 東京都教育庁)

表1 昨年度1年間で学校だけでは解決困難なケースが発生した学校数及び件数

校種	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	総計
学校数	215園	1,316校	633校	201校 265課程	53校 140学部	2,418校(園) 405課程・学部 ※
発生校数	7園 (約3%)	113校 (約9%)	55校 (約9%)	41校 (約15%)	18校 (約13%)	234校(園) (約9%)
発生件数	8件	126件	66件	70件	56件	326件

※高等学校、特別支援学校については、課程及び学部別でカウント。

表2 各自治体独自の支援策(区市町村教育委員会)

弁護士による学校法律相談制度の設立	(1)
区・市の顧問弁護士の活用	(11)
相談機関の設置及び支援担当者の派遣など	(13)
教育委員会と学校が連携しながら対応	(多数)
関係各課・各機関と連携しながら対応	(多数)
保護者対応及び接遇等の研修会実施	(3)

平成19年度に①理不尽な要求などが繰り返して行われた、②学校での対応には時間的・精神的に限界がある、の双方の条件に該当し、学校だけでは解決困難なトラブルが約1割の学校で発生している。

具体的な事例として、「いじめ加害児童を指導したところ、その保護者が恐喝や脅し等の言動を繰り返す」「授業料の徴収に際し、脅しまがいの言葉で徴収を逃れようとする」「スクールバスのバス停やルートの変更の要望が繰り返して何度も行われた」などが報告されている。

あわせて、各区市町村教育委員会での対応についての結果も示されている(表2)。多数を占めているのが、教育委員会や関係機関等と学校が連携しながら対応している、というものであった。数は少ないが、弁護士による「学校法律相談制度」の設立や区・市の顧問弁護士の活用などの支援策をもって対応している例もみられた。

この調査結果を受け、東京都教育委員会では、21年度から、学校と保護者との間に生じたトラブル解決に取

り組む専門部署を設ける方針を決めたことを発表した（20年11月）。

港区の「学校法律相談制度」

東京都港区では、平成19年6月、「学校法律相談制度」を立ち上げた。増加しつつある保護者からの苦情に対する対応策である。学校に「学校医」が配属されているのと同様に「学校弁護士」を配属しようとする教育委員会の英断である。

制度の目的は、弁護士から指導助言を得ることにより問題の早期解決に役立てるものである。区内の幼稚園・小中学校を五つのブロックに分け、それぞれの地区に専任の弁護士を依頼し、相談できるという仕組みとなっている。

19年度6月から20年度の9月までに延べ14件の相談があったという。相談内容の事例では、「離婚調停中に一方の親から子どもの引き渡しを求められた場合やその子どもの情報や所有物の引き渡しを求められた場合の法的根拠について」「子ども同士のトラブルにより不登校になったのは、指導しない学校に責任があるとして謝罪文を要求された場合の対応について」などであった。しかし、全体の件数は、当初に想定していたよりも少なかった。

学校では、何かあれば弁護士に相談するこ

とができるという安心感を得ることができたことは成果といえる。一方、どの範囲・問題まで相談することができるのかわからないという意見もあり、今後、ガイドラインを作成するなどの改善を行うとのことである。（港区教育委員会 教育政策担当統括指導主事より取材）

大人が示す「賢さ」のモデル

様々な苦情は、問題が発生した初期における把握や対応の在り方の不十分さに起因している。問題がこじれてしまっただけからの対応は困難を極める。それを予防するために、学校及び教職員は、子どもの心を受け止め適切に関わることで、保護者との信頼関係を確立することへの努力を惜しんではならない。

苦情は学校への期待でもある。学校や教育委員会は、苦情に対して正面から取り組み、現時点で最善の策を講じて保護者に伝え、協力して問題を解決することを提案したいものである。その際、一方的で感情的な議論にならないよう心がけるとともに、子どもの教育環境を第一に考えて、誠実かつ毅然とした態度を心がける。

なお、保護者との話し合いを行う場合には、複数で対応すること、話し合いの時間をあらかじめ設定すること、記録を正確に取ること、などの基本的な対応の方法等について組織内

で共通理解しておきたい。

さらに、カウンセラーや弁護士、医師などの専門職に相談し、解決に向けたアドバイスをすることも重要である。また、保護者等の苦情対応に関する図書や論文も数多く出されている。保護者のタイプ別の対応や具体的な例示が記述されており、一読をお勧めする。

児童の暴力が増加しているとの調査結果が先日報道された。怒りや憤りなどの感情をどのように処理すればよいか、という知恵を学ばせることも必要となってきた。子どもは、大人の背を見て育っている。大人は、判断力や対応力を磨き、適切に問題を解決する「賢さ」のモデルを子どもたちに示していきたいものである。

◆参考図書・論文等

- 関根真一著「となりのクレイマー」中公新書ラクレ 二〇〇七年
- 諏訪哲一著「学校のモンスター」中公新書ラクレ 二〇〇七年
- 鳴崎政男著「学校崩壊と理不尽クレーム」集英社新書 二〇〇八年
- 佐藤晴雄「保護者にどう対応するか」教育展望二〇〇八年一月合併号
- 教育調査研究所
- 鳴崎政男「学校は保護者の問題にどう対応するか」教育展望二〇〇八年十一月号
- 教育調査研究所

世界 きょういく 見聞録



Vol.5 FROM FINLAND



世界には、さまざまな学びのプログラムやプロセスがあります。

今回は、「学習到達度世界一」と言われるフィンランドに留学した経験から、教育環境について考えます。

子ども一人ひとりを 大切にするフィンランド

国土面積は日本とほぼ同じだが、人口は20分の1以下の520万人という「小国」フィンランド。だが、OECD（経済協力開発機構）が四年ごとに行う学力到達度調査 PISA で2回連続して世界一となり、近年「教育大国」として注目を浴びている。現在大学生の娘、真由は2004年～2005年の1年間、首都ヘルシンキ郊外にある公立ヘルトニエミ中高一貫校に留学し、その体験と2007年に再訪しての取材を、私と共著で『受けてみたフィンランドの教育』（文藝春秋刊）にまとめた。娘の体験を踏まえフィンランドの教室で見た印象的な光景を伝えたい。



翻訳家・ライター
実川 元子

子どもの好きなことを伸ばす公立校のバラエティ

「今アメリカで大統領選挙が行われているね。民主党の有力な指名候補は誰かな？」

先生が流暢な英語で聞くと、数人の女の子がさっと手を挙げた。

「ヒラリー・クリントンとバラク・オバマです」

「そうだね。きみはどちらになってほしい？」

「ヒラリー・クリントンです。女性が大きな国の大統領なんてスゴイ！（fantastic）」

2007年初めで、まだオバマ氏の知名度が低かったころ、小学5年～6年の英語のクラスで、オバマ氏の名前をフルネームですらすら答える生徒がいることに、まず私は驚嘆した。フィンランドでは小学3年生から外国語（英語、仏語、露語等から選択）が必須だが、そこで優秀な成績の子どもを集めたク

ラスだという。私が驚いたのは英語力だけでなく、先生と生徒のやりとりの内容だった。つねに先生が生徒自身の意見をたずね、生徒がそれにしっかり答える。言葉で自分を表現することを目的とする語学力の養成が、すでに小学校の授業で行われていることにショックに近いものを感じた。

フィンランドの学校はほぼすべて公立だ。学校にかかる費用は（給食代も含めて）全額無料。基本的に子どもたちは歩いて通える地域の学校に通う。その中であって、私が見学した小学3年から高校までの一貫のその学校は、入学試験をして生徒を集め、とくに語学に力を入れるカリキュラムを組んでいた。帰国子女の受け入れに積極的で、留学プログラムにも力を入れている。ほかにも芸術教育、スポーツ、理系科目などに力を入れて、優秀な子どもたちを集める公立校があると聞いた。

「教育指導要領で定められている基本の授業時間は確保していますが、重点的に力を入れるカリキュラムを組むかどうかは各学校に任されています」と言うのは、娘がお世話になったヘルトニエミ高校のカムラ校長だ。またバイオリンがやりたいと「受験」して、小学生のときからバスを乗り継いで遠くの公立校に通っていたという娘の友人は、「子どもがやりたいことを見つけたら、それに打ち込める教育環境が必要よ」と言っていた。

小学校から、バラエティに富んだ「才能」を磨くことを目的にした、授業料無料の公立校がたくさんある。それがうらやましかった。

PISA2006年調査の国際比較

順位	科学的リテラシー	読解力	数学的リテラシー
1	フィンランド	韓国	台湾
2	香港	フィンランド	フィンランド
3	カナダ	香港	香港
4	台湾	カナダ	韓国
5	エストニア	ニュージーランド	オランダ
	⋮	⋮	⋮
	6 日本	15 日本	10 日本



▲フィンランドの学食。授業料，教材費，給食費などはすべて無料。

◀移民クラス。母語や習熟度がさまざまな移民の子どもたちにも，十分な教育を受ける機会が保障され，教育格差をつくらないようにしている。

時間も手間も存分にかけ 落ちこぼれをつくらない

授業見学した中学2年の数学の教室に，ヒゲがうっすらはえている大柄な男の子が座っていた。一人浮いていたが，本人は臆することなく前に座って淡々と授業を受けていた。聞けば16歳だが，留年して中学2年をやり直しているという。

フィンランドでは小学校から留年はよくあることだ。「学校にもよるけれど，40人のクラスなら平均二，三人は留年する」とヘルトニエミ校の先生は言っていた。学力がレベルに達していない，と判断されれば，先生と生徒と親の三者が面談して，納得の上で学年をやり直す。

5学期制なので，学期末ごとのテストの成績と授業態度を見て，そのつど先生が「つぎがんばらないと留年だよ」と警告を出す。生徒には挽回のチャンスは十分に与えられているわけだ。また学習到達度が低いと判断されれば，科目ごとに補習もしてくれる。放課後や空き時間に，先生がほぼマンツーマンで教えてくれるのだ。それでもクリアできなければ留年となる。親子とも納得がいくはずだ。

「わが子が留年して，恥ずかしいと思わなかった？」と息子が留年していることをあっけらかんと打ち明けた母親におそろおそろ聞いてみた。

「全然。だって学力が足りなくて，物事がわかっていないまま社会に出るほうがずっと恥ずかしくない？あとで苦労するのは本人と社会なのよ。教育は社会に出て働ける人をつくるためにあるのだから，まともに働けるとわかるまで社会に出せないわ

よ。息子だってそれがよくわかってる」

なるほど，と首が胸に埋まるほどうなずいた。

「できる子」も「落ちこぼれ」もともに手厚く

フィンランドでも子どもが置かれている環境はさまざまだ。アルコールやドラッグの問題も深刻で，うつ病にかかる人の割合も飛び抜けて高い。それに起因した児童虐待も社会問題になっている。

だがフィンランドは，地域格差や経済格差をできるだけ教育格差につなげないように，子どもたち一人ひとりに配慮する学校教育にしよう，と相当の努力をはらっている。子ども一人ひとりに手厚い——フィンランドの教室をめくりながら感じたのはそこだ。日本とは社会環境もシステムも大きくちがうが，時間も手間もたっぷりかけて子どもを育てようという気概だけは見習いたいと思った。🌻

書籍紹介

『受けてみたフィンランドの教育』

実川 真由・実川 元子 著
文藝春秋刊 1,524円＋税

「勉強する」ことは「読む」ことである」「塾はないが，授業中は徹底的に集中する」「先生は社会的地位が高く，尊敬される存在」「授業も宿題もテストもとにかく『エッセイ』を書かせる」など，女子高校生が体験したフィンランドの「学び」が具体的に，読みやすい文章で記されている。その背景や社会環境については，母による解説が詳しい。





毎日丹精こめて育てた大根を収穫した5年生たち。収穫した野菜は毎年11月の「収穫祭」で、クラスごとに「学級鍋」をつくっていただきます。このクラスはキムチ鍋「激辛レッド」をつくる予定。学校の栄養士さんの指導を受けて、保護者のボランティアが調理してくれます。

横浜市立山元小学校

農園がつなぐ

子ども・学校・地域

横浜の中心部近くに位置しながら、下町の雰囲気を残す山元地区。山元小学校（藤代慎一校長、373名）には、敷地内に300坪の「山元農園」があります。子どもたちは、四季を通じてさまざまな野菜を育てながら、畑と向き合っています。



当番表。全員が責任をもって担当の野菜を育てます。

地域に支えられて15年

84年、6年生が学校の端の丘にある荒れ地に、斜面を利用してジャガイモを植えてみたところ、思いのほかたくさんとれたのが農園活動のきっかけです。それから15年、「おらが学校」と支える気持ち強い山元地区の人々は、農園ボランティアとして、開墾から作業のやり方まで、熱心に指導に当たってくれています。

畑で「命」と向き合う

現在、子どもたちは、種のまき方

や間引きの仕方、雑草とりなど、慣れた様子でできばきと作業を進めます。1年生のときからペアの学年やボランティアさんから学び、真剣に畑に向き合ってきた賜物です。教務主任の野村光先生は言います。「途中から山元小に転校してきた子は、『汚れるのが嫌』『気持ち悪い』と、最初はなかなか土に触れないんです。無農薬なので、虫は一匹一匹割りばしでつまみとるんですが、そういう作業も周りの子の様子を見ているうちにできるようになり、自分が世話をした野菜の生長を喜んでいるのが印象的です。」

また、山元小では「野菜嫌いの子が本当に少ない」そうです。給食室



校長先生も収穫のお手伝い。08年は「根こぶ病」が発生し、白菜や大根はあまり大きくなり残念。でも、農園の周りの柿、栗、柑橘類、ブルーベリーなどの果樹は豊作！



2年生は大きなサツマイモを収穫。このあと、いもづるを使って算数の「メートル」の勉強をします。

から出るものはコンポストで肥料に
してありますが、「調理段階の残渣は
あっても、残飯はほとんど出ないん
ですよ。自分たちも食べ物をつくっ
ているから、給食を作ってください
方のことを想像できるんですよ。」
間引き菜も捨てずに食べるなど、農
作業をしていく中で、野菜の命をい
ただいているという意識が自然に身
についているようです。

農園を教材に 「実感を伴った理解」を

山元小学校では、農園を教材化し
ようとさまざまな試みを行っていま
す。例えば4年生の「社会科」では、
山元農園の農事暦を作成、県内他地
域の農事暦と比較することで気候の
特徴や物流、市場経済などを学ぶこ

とにつなげています。5年生の「理
科」では、発芽実験、生長条件、結
実という一連の流れを農園を活用し
て学びました。夏には雄花雌花があ
るウリ科の野菜をたくさん植えてい
たため、受粉の観察での気づきや発
見に大いに役立ちました。

6年生担任の黒川将司先生は、「実
感を伴った理解は自分で農作業をし
ながら身につくんですね。それが農
園活動の魅力です。ただ植えれば実
るわけではなく、日光などの気候条
件や水やりなどの世話が作物の生長
に影響すること、本当に花が咲いた
後に実ができるんだ、など、身をもっ
て知ることができたようです。」と
話しました。

子ども先生も一緒に学ぶ

黒川先生は、山元小が初任校で今
年は6年目。「最初は本当に何も知
らなかつたけれど、子どもたちにも
教わって、今は、苗を見ただけで何
の野菜かわかります。」と笑います。

校長先生も、山元小に赴任するま
で全く農作業に携わったことがな
く、ボランティアさんに「から習っ
たといいます。「山元小に来たら子

どもはもちろん、教師も必然的に野
菜の栽培をすることになるし、勉強
もしなければいけない。先生たちは、
畑にかかわる授業をどうつくってい
くか、本当に熱心に研究しています。
一生懸命勉強している先生たちをぜ
ひほめてあげたいですね。」



「収穫祭」では、おみこしやダンス、クイズなどで盛り上がります。夏には春夏野菜の「ミニ収穫祭」が行われます。



開墾当初からボランティアとして指導してくださっている方も。子どもと学校、地域の連携の実践研究で、横浜市から「パイオニアスクールよこはま（P S Y）」の指定を受けています。

東京都

一人一人のニーズに応じた 教育を目指して

〜特別支援教育の推進〜

◆ 立川市教育委員会指導主事 中嶋 富美代

平成 19 年度から本格的に開始された特別支援教育。本市では、「すべての子どもたちに適切な支援を行うこと」を基本的な理念とし、その取り組みを進めている。

特別支援教育の具体的な取り組みとして、各学校では、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の定期的な実施、校内研修の実施、保護者会や学校便りによる保護者への啓発等を進めている。

そして市教育委員会では、特別支援教育支援員の全校配置、市教育相談室の臨床心理士による巡回相談や特別支援教育アドバイザーによる巡回指導の実施、特別支援教育ヘルプデスクの設置、都立特別支援学校や医療機関との連携、定期的な研修の実施、「就学支援シート」の活用、副籍事業の実施、研究校の指定等により、学校の取り組みを支えている。

また、昨年度より文部科学省の指定事業を受け、学生支援員の配置や市民対象の報告会の実施により、取り組みの充実を図っている。

特に、今年度から開始した月 13 日間の特別支援教育支援員の配置については、各学校から高い評価を得ている。通常の学級に在籍する支援の必要な子どもたちに、担任の補助として教室内や取り出しによる個別の支援を

行うことで、確実な学力の向上や、学級内の安定が図られているところである。

特別支援教育の取り組みを進めることにより、「児童・生徒理解が深まった」「授業改善や校内環境整備が進んだ」との声を先生方から聞く。すべての子どもたちに確かな力をつけるために、今後も学校と教育委員会、関係機関等が連携し、取り組みを推進していきたい。



INFORMATION

北から

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

いかと自負している。学校関係者評価でも、70.4%の保護者が有意義で役立ったという結果が得られた。まさに、特色ある学校づくりの一環として、本校のオンリーワン教育活動と捉えている。それがまた、家庭・地域からの信頼獲得になるとともに、本校の学校力向上に結びついたと考えている。



徳島県

豊かな学びに結びつく夏休みに

〜わくわくいきいきサマースクールの実践〜

◆ 徳島市立沖洲小学校校長 長井 明福

本校では、平成 19・20 年度の夏休みに「わくわくいきいきサマースクール」を実施した。この実践は、夏休みは子どもたちを家庭や地域に返すという従前の考え方でなく、学校が夏休みも家庭や地域とともに子どもたちのよりよい成長のために働き掛けているという考え方に立脚するものである。

具体的に、本年度は、15 教室を開催した。

- 体験—星空観望・自然観察・発明・英会話
- 学習—絵画・読書・宿題・書道・コンピュータお絵かき

- 体力—跳び箱・水泳・自分でつくる朝ご飯
- 他に、従前から実施してきた金管バンド・カラーガードの夏季練習とプール開放がある。

例①跳び箱教室

跳び箱に苦手意識があり克服しにくい子どもを対象に、市内外の体育教師 10 名余の方に協力願い、日曜午前中に開催。

49 名の参加で全員跳べるようになった。

例②宿題（漢字・計算）教室

宿題を苦痛に思う子どもたちを対象として、本校教員が学年別に指導支援を行った。4 日間開催して 298 名が参加した。

子どもたちにとっても保護者にとっても、好評であり、学びの喜びが得られたのではな

感動と知恵を育む 「ふるさと教育」の推進

◆ 白糠町教育委員会指導室長 藤原 聡

白糠町は、人口1万人ほどの自然環境に恵まれたすばらしい町です。南は太平洋に面し、沿岸漁業が盛んに行われ、北は酪農の里として農業が営まれ、森林資源に恵まれた産業活動も行われています。歴史を溯れば、アイヌ民族が豊かな生活をしてきたことを基盤にした、開拓の歴史が人々の足跡として残されています。

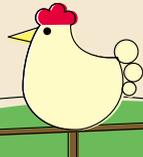
こうした自然と歴史に恵まれたふるさとの町を一人一人が誇りとし、それらを感動的にとらえ、人間としての生き方を地域からしっかりと学んでいける教育が白糠町の『ふるさと教育』です。そして、①物事を見る時に心の角度を変えてみる ②人のために汗を流すことができる ③ふるさとにしっかりと足を置くことができる—という21世紀の白糠町を築く人づくりを目指しています。学校教育においては、環境・国際理解・福祉人権・歴史文化・情報・スポーツ健康という実践領域を掲げ、町内それぞれの学校の特色ある取り

組みを進めています。

北海道アイヌ文化祭が開催された昨年は、町アイヌ文化保存会と連携を図り、アイヌ文化出前講座を各学校で実施し、アイヌ語や古式舞踊、ムックリの演奏を実際に体験しながら、伝統文化に触れる活動を行いました。また今年も、国際化時代に対応する子どもの育成を重点とし、中国人CIRに加え、イギリス人とカナダ人のALT2名を配置し、幼児期から中国語や英語の外国語に慣れ親しませ、活用できる力を培うことを目指しています。今後とも「白糠で学んでよかった」と言える教育づくりを進めるため、さらにステップアップした『ふるさと教育』の充実に努めているところです。



南から



子どもたちの遊び場所がない、そして家でTVゲームに没頭する、そんな放課後の過ごし方が垣間見えるようになって久しい。今ではますます世の中が物騒になり、心配で親も子どもを外に出せない現状がある。

「子どもたちが集まれる場所をつくろう」を合言葉に、今年度より『放課後子どもげんき教室』を小学校のご協力を得て、2つの学校内（校庭・教室・体育館）で開始した。

運営は、地域ボランティアの皆さんが企画の段階から自由なアイデアを出し合い、自分たちで行ってきた。新しい企画など、準備から片付けまでもこなし、子どもたちとふれあうたびに、やさしい笑顔が広がった。そこにあるのは確かなやりがいだ。

子どもたちは、放課後に広い学校で大きな声を張り上げ、心躍る気持ちで時間の経つのも忘れるほどの体験をし、異学年、異世代のコミュニケーションを通じて社会のルールを学ぶ。開始してから間もないが、子どもから

は「週1のげんき教室が待ち遠しい」、保護者からは「夕食時にげんき教室の話をしてくれ賑やかな食卓になった」などの声が聞かれるようになった。遊びは、けんだま、どんぐりゴマ作り、ドッジボール、サッカー、鬼ごっこなど昔の遊びを中心に、できるものはスタッフ皆で「手作り」を持ち寄り行っている。

お金をかけずに創意工夫と愛情のこもった教室が、いち早く子どもたちの心の導火線に炎をともした。「ずーっと続けて！」まるで花火のように輝くその瞳を見ると、昔はどこにでもあった子どもたちの居場所が、地域力と共に復活する日が近いことを実感する。今後も柔軟なお手伝いに奔走したい。



子どもたちが輝く居場所づくり ～地域マンパワーで創る放課後子どもげんき教室～

◆ 坂戸市教育委員会青少年担当主任 倉持 雅史

入賞作品発表

協賛・後援 環境省 日本環境教育学会 (財)日本環境協会 全国小中学校環境教育研究会 毎日新聞社 毎日小学生新聞

6回目を迎えた「『地球となかよし』メッセージ」。

08年7月から9月の募集期間には、今年度も日本全国や海外から1,600点近くの力作が寄せられました。

特別賞7点、入選作14点には賞状と副賞、学校賞の3校には賞状と記念の盾が贈られています。

また、応募者全員に記念品として、一人一人の応募作品の絵はがきと、オリジナルエコバッグが贈られました。



環境大臣賞

お父さんの楽しみが…、
僕の楽しみにもなった。

渡邊 慧史

香港日本人学校小学部香港校6年



お父さんの楽しみが…。



僕の楽しみにもなった。

僕が通っている香港日本人小学校では、「資源を大切にすることを目的にアルミ缶回収をしています。今、世界中では資源を無駄にしないために、リサイクル活動が活発に行われています。ここ香港でもリサイクル活動をしています。アルミ缶やペットボトルの回収率は、日本と比べるとまだまだです。そこで、僕は少しでも協力できるように、アルミ缶をためて学校に持っていきます。持っていったアルミ缶は学校で重さを測ってくれます。どのくらいの重さになったかを知るのも、今の僕の楽しみになっています。

僕が通っている香港日本人小学校では、「資源を大切にすること。」というのを目的にアルミ缶回収をしています。今、世界中では資源を無駄にしないために、リサイクル活動が活発に行われています。ここ香港でもリサイクル活動をしています。アルミ缶やペットボトルの回収率は、日本と比べるとまだまだです。そこで、僕は少しでも協力できるように、アルミ缶をためて学校に持っていきます。持っていったアルミ缶は学校で重さを測ってくれます。どのくらいの重さになったかを知るのも、今の僕の楽しみになっています。

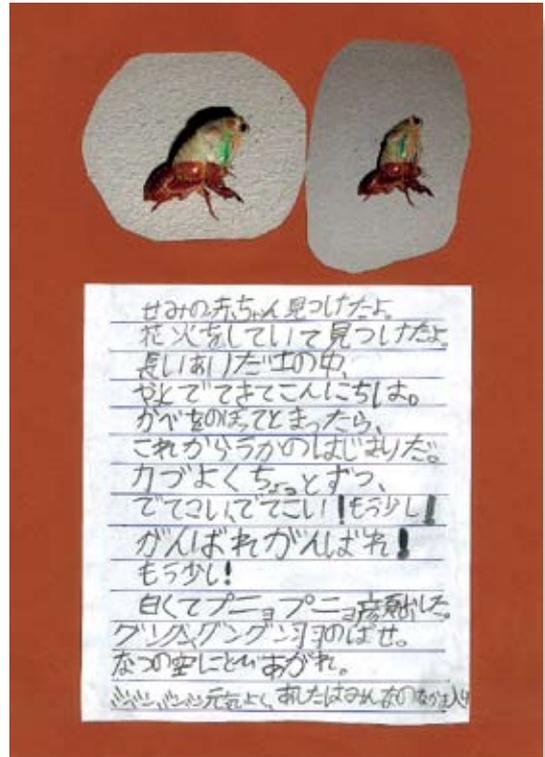
【評】香港でもアルミ缶の回収。地球はみんなのものだから。だけど、お父さん、飲みすぎないでね。そんな心も……。

地球となかよし大賞

せみのうか

小池 翔希

広島県尾道市立高見小学校2年



ぼくが花火をしているときに、せみのよう虫が、土の中から出てきて、歩いていたよ。木をたてかけてやると、かべの上までのぼって行ったよ。その後すぐに、うかがはじまったよ。

せみはいっしょうけんめい、いっしょうけんめい、力いっぱいかわをぬいでいたよ。少しずつ少しずつ頭や顔が見えてきたよ。ぼくは、生まれてはじめてせみのうかを見たよ。ぼくもいっしょうけんめいおうえんしたよ。小さな小さなせみもいっしょうけんめいに生きていることがわかったよ。

いろんな生きものがすすめるしぜんを大切にしていきたいです。

【評】小さな命と一つになり、見つめ、おうえんするあなたのすがたこそ、今、求められている。この眼と心がだいたした。

毎日新聞社賞

気づいて…

長谷川 円香

神奈川県相模原市立鶴野森中学校2年



ほく、ずっと前から体温が上がっているんだ。
君が熱を出したら誰かがすぐ看病してくれる。
なのに…
どうしてほくの看病はしてくれないの…？
君が冷房の温度を1度高く、暖房の温度を1度低くするだけで
(年間約33kgのCO₂削減)
君がシャワーの利用時間を1分縮めるだけで
(年間約69kgのCO₂削減)
君が買い物のときエコバックを持っていくだけで
(年間約58kgのCO₂削減)
ほくは少しずつ楽になっていくんだ。
だから
自分にもできることがあるって
気づいて実行して…!!

評 地球は病んでいる。それを治せるのは私たちひとりひとり。
その行動プランがここにある。早く、気づくのだ。

全国小中学校環境教育研究会賞

氷見の宝 上日寺の大イチョウ

祖父江 望実

富山県氷見市立朝日丘小学校6年



大きくて、秋には多くの銀杏が実ります。天然記念物の木、大イチョウは氷見の自慢です。
でも、ある日。散歩で大イチョウの近くまで行きました。すると、タバコの吸い殻が落ちていました。注意して探すというんな所に。そして…大イチョウのすぐそばに。言葉に表せないくらいのショックでした。一応持っていた、袋があったので、その中に入れましたが、木のすぐそばに落ちていたものはさくで囲んであったので、拾えませんでした。大好きな大イチョウのために！時々ゴミが落ちていないかとチェックしに行きました。
「またね！」とっていつものように帰ろうとした時イチョウの葉がヒラ～と落ちてきました。お礼かな？ すごく嬉しかったです。

評 じまんの大イチョウを守るすがた。自然や文化を保護する心がここにある。そんなあなたは、イチョウのじまんの子。

日本環境教育学会賞

森の約束

正木 克弥
兵庫県姫路市立青山小学校5年



ほくの大切なドングリの苗。
台風で倒れた木のあとに植える。
ほくは3年間、里親なんだ。
発芽したばかりのドングリの葉を穴だらけにしたヤツがいて、ほくは犯人をさがし出した。
名前は、ヒメコブオトシブミ。
葉に1つずつ卵を産んでまるめる。
それは、ゆりかご。安全な場所。
ふ化した幼虫は、ゆりかごの中で葉を食べながら育つ。
蛹の間もゆりかごの中。
成虫になって出て来るころには、ドングリはたくさん葉を広げ、「さあお食べ。」と言っているようだ。
小さな小さなオトシブミ。
だまって育つドングリの木。
ずっと昔から話についてはいたんだね。
虫や動物は、森の元気のもとなんだ。
腹を立てたほくが、ちっほけに見えた。

評 「腹を立てたほくが、ちっほけに見えた」という一語に、虫と葉と私を包みこむ「森」の世界が言い尽くされている。

学校賞

北海道 石狩市立花川小学校

東京都 葛飾区立金町小学校

新潟県 川口町立川口中学校



審査委員（敬称略）

児島邦宏 帝京大学教授
林 京子 環境省総合環境政策局環境教育推進室室長補佐
角谷重樹 広島大学教授
綿貫 沢 全国小中学校環境教育研究会会長
千葉県印旛村立には野小学校校長
小澤紀美子 日本環境教育学会会長
東海大学大学院特任教授
関 博至 毎日新聞社「教育と新聞」推進本部編集委員
小林一光 教育出版(株)取締役社長



審査員特別賞

かに

花尻 純

東京学芸大学附属小金井小学校1年



かにをつかまえた。
だけど、みずがあたたくになると
かにかんじゅうから、
うちではかえない。
うみのみずがあたたくならないといいな。

評 かにに代わってうたえる。海の水をあたくしないでと。かにを見つめる目が、やさしく、するどい。

毎日小学生新聞賞

もったいない

寺内 貴司

中部テネシー日本語補習校小学部4年



ほくの住んでいるアメリカのテネシー州では、日本とちがってごみの分別をしている人は少ないです。ほくのアパートメントのごみすて場は、いつでも、何でもすてていいのですぐにいっぱいになってしまいます。ほくはそれを見て、責げんになる物がたくさんあるのに「もったいない」と思いました。
地球温暖化について両親に教えてもらい、地球にこんな問題があるなんてびっくりしました。地球を助けるために何をしたらいいのか考えました。まず、ペットボトルやスーパーのふくろなどをリサイクルする。買い物にはマイバッグを持参。食事は残さず食べる。
ごみがこれ以上ふえないように、できることをがんばりたいと思います。

評 「もったいない」の心から、日本のゴミの分別収集法をアメリカで実行しているとはすばらしい。広げたい。

2008 入選作品



ゆうじょうのわを広げよう

川 明日香
広島県東広島市立西条小学校2年



このなつ、わたしは、ガールスカウトのこくさいキャンプにさんかしました。外国の人も、たくさんいました。みんなで、キャンプファイヤーをして手をつなぎました。このわがもっと広がるといいなあ。

エコがいっぱいひいおばあちゃん

岡田 音音
青島日本人学校小学部5年



私のひいおばあちゃん なんと96才なのにすごく元気 毎日自分でそうじをしちゃうきれいな好き ひいおばあちゃんのお掃除道具は ほうぎでサッサ、はたきでバタバタ そうじきなんて使わない 東京の暑さにも負けず うちわでいつも、バタバタヒュー ひいおばあちゃんの友達 は 八百屋のおじさんと病院の司馬先生 遠い病院だって 毎日でも歩いていっちゃって いたいところを治して帰ってくる でもだんさが少し苦手 海へ行ったってへっちゃら はだしになって遊んでる ひまごの私もみならいたい 100才こえても長生きしてね

Forever Love

吉野 成華
バトルクリーク補習授業校中学部2年



僕たち、Humane Societyにいる犬や猫達は人間の勝手な都合によりここにやって来た。大きくなりすぎたからってここへ連れてくる飼い主さん。もう飼うことが出来ないからって、外に置いてきぼりにしていく飼い主さん。でも、僕達は人間のことは嫌わないよ。だって、一度でも僕達を愛してくれたじゃない。でもすぐ勝手だとは思ってる。だって、僕達を家へ連れて行き、育てようと思った時から、あなた達には僕達を最後まで育て、愛する責任があるんだ。僕達は人間なしでは生きられないんだよ。心や命の重さは人間も他の生き物も同じなんだよ。僕達はいつまでも待ってるよ。 Forever Home, Forever Love...



手を つなごう
大谷 萌江
東京都荒川区立瑞光小学校2年

いま、せかいでは、多くのものだいがおきています。せんそうやテロは多くの人たちのゆめやきぼうをうばっています。ちきゅうおんだんかかすんで、どうぶつがぜんめつしたり、アフリカでは食べものがとれなくてしんでしまったりしています。けれど、このまえの北京オリンピックでは、だいひょうせん手がたくさんあつまり、せかいーをめぐすすがたと、まけた後もおたがいをみとめあうすがたは、たくさんのかんどうをあたえてくれました。いま、わたしたちが一番大切にしなければならないことは、みんなで「手をつなごう」です。多くのものだいま、みんなで力をあわせて、かいつつしたいとねがっています。

よみがえれメダカ

島林 舞果
鳥取県米子市立彦名小学校3年



「地球となかよし」という事は地球が喜ぶ事をするという事だと思います。私は、彦名地区チビッコかんきょうパトロール隊に入り活動しています。サボーターから、川の水をきれいにする方法を教えてくださいました。それは、着れなくなった服はすぐにすてないという事です。小さな子にあげる事と、すごくポロなのは10cm四方に切り、食事の後のお皿をふくのに使ってからすてる事です。そうすると、よごれた水は流さないでいいし、使う水の量も少なくてすみます。彦名では、大ぜいの人がそうしてるから、川がきれいになり、メダカが泳ぐようになりました。小さなよい事が地球と仲よくなる事だと思います。

ゴミのなご海

松井 紀也
東京都台東区立根岸小学校3年



今年の夏も大好きな海へ行った。 さっそく海へ入ってみた。だけど…… 今年の海はゴミが多かった。 ぼくはゴミを持ってかえろ!!

犬と地球温暖化

マルビンスキー ユリア 杏花
香港日本人学校小学部香港校5年



ぼくたちは、足が短いです。お散歩の時歩いていて地面が暑くて車のはいきガスがくさいです。ぼくたちは、もっと緑があつて空気がきれいな所を散歩したいです。みなさんもっと地球を大切に地球温暖化がこれ以上に進まないようにしてください。

さかながげん気にくらせるうみ

前岡 武瑠

広島県東広島市立河内小学校2年



ぼくは、魚が、元気にくらせる
海にしたいです。
海がよごれていたなら、
魚が、元気にくらせません。



地球となかよしメッセージ

「変わらない」大切さ

永田 彩華

静岡県西遠女子学園中学校1年



アオウミガメの足跡がかすかに残る砂浜に、ヒロベソカタマイマイの半化石があたり一面に広がっている。そして、私たちの頭上をカツオドリが飛んでいる。この光景を目の前にして、何も言葉は要らなかった。

小笠原にある南島は、上陸するのに数々の規制があるからこそ現状を維持することができる。一時間の上陸で、「この素晴らしい自然環境を後世に残したい」という、みんなの強い願いと規制の必要性と重要性を全身で感じた。

足元で、化石になった貝の間をぬように歩き回るオカヤドカリの姿がとてもかわいらしく思えた。



「ムササビと森を守る会」のできた訳
前田 カンナ
東京都立川市立立川第七中学校1年

一時期、神社の木がかれてしまうことがありました。原因は神社に巣をつくっているムササビでした。一度は駆除をしようとしたのですが、食べ物不足でムササビが木を食べているとわかり、近くにある旭小学校の児童は「ムササビと森を守る会」をつくり、ムササビにどんぐりをあげました。そのことを知った人達がどんぐりたくさんをどんぐりを旭小学校に送ってくれるようになりました。

ムササビがこんなになってしまったのは山に帰れなくなってしまったからです。

自分達の都合だけでたくさん木を切り、家を建てたのだから、これくらいはあたり前だと思っています。私も何かできることがあるなら手伝いをしたいです。



やさしい手をありがとう
藤原 捺
広島県尾道市立高見小学校3年

困った時、かなしい時、手をかしてくれたね。
ありがとう。
今度は、ぼくと私の手をどうぞ。
手と手は、とてもあたたかいね。
みんなで助け合えるやさしい地球が大好きだよ。

海を守る人びと

酒井 弘紀

東京都北区立堀船小学校4年



夏休みに、おばあちゃんのいなかの山形県に行きました。毎年、海に行きアジやキスをつって食べています。

ある朝、海に行くと船がしずんでいて大量の重油が流れ出ていました。作業員の人達が来て海に流れ出た重油をとりのぞく作業を何時間もしていました。ぼくが帰るころにはほとんどの重油がとれていました。その日のニュースで海水よくや漁業にえいきょうがないと言っていたのでほっとしました。

海を守ってくれた作業員のみなさんありがとうございました。

3種類の野菜たち

大下 夕依

広島県海田町立海田南小学校4年



自分で育ててみたいと思って今年初めて、トマト、ピーマン、きゅうりのなえをうえました。家族で協力して、朝、夕方と毎日水やりをがんばりました。お米のとぎ汁を水やりに使ったりしました。

一番初めにできたのはトマトでした。初めのトマトはすごく小さくて緑色でした。次にできたのは、ピーマンでした。ピーマンは白い花ができてそこから小さなピーマンができました。さい後にきゅうりができました。大きくなった時ととてもうれしかったです。

野菜を育てると緑がふえて空気もよくなるし、自分が育てた安心な野菜が食べられるので体にもいいと思えました。来年も育ててみたいと思います。

みんなの友達 ダルマガエル

橋本 朋奈

岡山県赤磐市立高陽中学校2年



ぼく、ダルマガエル。
ぼくの田んぼ、なくなったんだ。みんなの大きなお店になるんだって。

でも、みんなが新しい田んぼを、作ってくれた。こわ〜い鳥からも、安心できるようにネットもつけてくれたんだ。ぼくたちの仲間の、アマガエルやトノサマガエル、ツチガエルとヌマガエルのひっこしを、人間のみんなが手伝ってくれたからよかった。だってぼくたち、みんなと地球の仲間だよね!!!



地球となかよし ゼミナール

子どもたちのメッセージに学ぶ

「地球となかよしメッセージ」応募作品を手がかりに、教育にかかわるキーワードをクローズアップ。
今回は、今年度の応募作品から、国際理解教育の意義について考えます。

「国際理解教育」

日本を知り、世界を知り、 平和に通じる心の育成を

東京都教育委員会では、昭和59年度から、国際的な相互依存関係が深まり、物・情報の交流に続いて人の交流が盛んになってきた状況を背景に、教育目標の「学校教育の課題」の中に「国際理解教育の推進」を掲げ、意図的な事業を推進してきました。その当時の目標は、「世界の人々から信頼され尊敬される日本人の育成」における「自国文化理解」「異文化理解」、そして「コミュニケーション能力」の育成を目指した数々の実践が積み上げられてきました。

あれから25年、平成20年度には、教育基本法の改正と国際化のさらなる進展を受け、学校教育法第21条3項の「義務教育で達成する目標」に次の内容が設定されました。
『我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと』

この内容こそ、現在の国際理解教育の目標です。新学習指導要領

では、小学校の5・6年生に「外国語活動」が創設され、総合的な学習の事例に「伝統と文化」が加わり、中学校の地理的分野の内容に「日本や世界の地誌学習」が強化されたりして、目標達成のための学習内容も整えられ、全教育活動で「国際理解教育」に取り組む方向性も示されました。

今回のお二人のメッセージからは、「もっと、世界の人と仲よくして心でわかり合おう」という強い平和への願いを感じ取りました。

児玉孝徳さんの「外国人と仲よし」からは、ホームステイされ



外国人と仲よし。

●児玉 孝徳（広島県海田町立海田南小学校4年）

この写真はぼくのいとこの家に、家族や、アメリカからこられたオデッタさん、インドからこられたシンドゥーさんと、写真をとりました。お二人は、8月6日の平和祈念式典に出席するために広島に来られました。

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、ボランティアガイドをしているので、ぼくが生まれたころから、毎年外国から、来られた方が、ホームステイをされます。

ぼくは今年初めて、えい語でしようかいをしました。ぼくは、初めて、えい語が通じたので、ぼく、とってもうれしかったです。ぼくは、世界中の外国人と、仲よくなりました。



心で分かり合える

●工藤 真実（東京都江東区立深川第八中学校3年）

この写真は、私が中学二年生の時初めて韓国にボランティアとして二週間行った時です。韓国の子どもたちは韓国語の本を使ったりと今まで習った英語を使ったりと、語学本は手離せない大変な毎日でした。

けれど、私はそれがないと会話が出来ない本をいつのまにか捨てていました。初日はずっと開けながら話していたけれどいつのまにかその本は邪魔になっていました。けして韓国語が話せるようになった訳でもないけれどなんとなく言っている事が分かるようになりました。私は、その本を捨てる時、重要な事に気がきました。これこそが本当に心だけで通じ合えると言う事なんだと。

る、顔立ちや言葉も違ういろいろな国のお客様と触れ合っているうちに「世界」を感じ始めたきっかけが伝わってきました。英語で話しかけたら、ニッコリ笑ってうなずき、握手してくれたかもしれない。工藤真実さんの「心で分かり合える」では、お互いに気をつかいながら片言の韓国語、日本語、英語で行っていたコミュニケーションが、いつのまにか笑顔でかわり、心と心が響き合って会話している自分たちを発見した喜びを語ってくれています。でも、「だから言葉は必要ない」と言っている

るのではなく、もっと言葉をしっかり勉強して強い絆を結びたいという願いも伝わってきます。国際理解教育では、外国の生活や文化についての知識を学ぶことも大切ですが、直接に、時には間接的にそれに触れることのできる場や環境を用意して、その中に飛び込んでみることも必要です。日本の文化と異なる文化を感性のレベルで受容できたとき、お互いの文化について話し合えるようになり、「仲よく心でわかり合える関係」が生まれてくるのではないのでしょうか。



跡見学園女子大学教授
堀内 一男

格差社会で「がんばる」意味



香山 リカ
(精神科医・立教大学教授)

私が小中学生だった60年代、70年代は、日本が敗戦の痛手から本格的に回復し、民主主義を謳歌していた時代だったんだな、と今になってつくづく思う。

学校では繰り返し「人間はみな平等」「努力がいちばん大切」と教えられ、実際にクラスでもテストで100点を取ってほめられるのは、いつもいちばんがんばっている子たちだった。後になって、その中には経済的に困窮していたり家庭内でトラブルを抱えていたりしていた人もいたことに気づいたが、当時はそのことと「勉強ができること」はまったく関係がない、とだれもが思っていた。「がんばること」ならどんな子にもできるはず、と思われており、実際にそうであったからだ。

ところが今は、その「がんばること」さえ、家庭の事情などでできなくなっている子どもたちもいると聞く。また学校でいくらがんば

ばっても、塾に行っていなければクラスのトップにはなれない。よくできたね、とほめられるのは、いつも塾に行かせる余裕のある家庭の子どもたちとなれば、そうでない子はやる気を失ってしまうのも当然だ。

今は、政治家の世界でも二世、三世でなければ重要なポストにはつきにくいご時世だ。そういったニュースを見ているうちに、小中学校時代にちょっとくらいがんばっていい成績をおさめても、それだけではその後の人生が切り拓けないのだ、と思い込んでしまっている子どもも多いのではないか。診察室に来ていたある高校生が言っていたことがある。「僕にもカネコネがあるか、超イケメ

ンかだったら、うまくいったのに。努力だけじゃムリですよ。」十代の子が「努力なんて」と平気で口にするのを聞くのは、とても悲しい。

しかし、本人の意思や努力と関係のないところで成功を取めた人が、その後、目標を見失い、むなしさにとりつかれて精神科の門を叩く場合も実は少なくないのだ。「人から与えられたものじゃダメ、自分の手でつかんだものにしか価値はない」というのは、格差社会の現代でも、変わらぬ真実なのではないだろうか。恵まれない環境でも一生懸命、がんばっている子どもや若者に、もっとスポットライトをあてる努力を私たち大人もしたいものだ。

イラスト
ひらた ゆうこ



理数体感型ミュージアム「リスूपピア」展示

Water Flight ウォーターフライト

水を操作しながら水蒸気→雲→雨と変化。「天気の変化」を舞台上の水の循環を体験します。上手に操作することで一連の循環のタイムを競い合います。体験は3つのステージから構成されています。

1st STAGE

海面の水蒸気を上昇気流に乗せてできるだけ早く雲の中へ。

2nd STAGE

雲の中では氷の粒を操作してできるだけ大きな粒に。

3rd STAGE

雨を操作して上昇気流を避け、できるだけ早く海面へと落下する。

各ステージの間には、ステージに対応した自然現象を解説します。

「リスूपピア」<http://risupia.panasonic.co.jp/>
東京都江東区有明2丁目5番18号 パナソニックセンター東京 TEL 03-3599-2600

ほっとな 出会い

理数体感型ミュージアム
「リスーピア」館長

しも の りゅう じ
下野 隆二 さん



91年パナソニック株式会社(旧松下電器産業)入社。05年、「リスーピア」プロジェクトに参画、07年館長就任。



▶展示の一つ、ビッグタングラム。七つの図形が無数の形を生み出す。

●「なぜ？」を「なるほど！」に

リスーピアは、企業の社会貢献の一環でやっていますが、企業色は一切排除しています。純粋に子どもたちの理数への興味・関心をかき立てたい。学問の入り口にあるおもしろさや楽しさを伝えて、学校現場に戻してあげたい。この点に絞った施設づくりをしてきました。

スタッフのことはナビゲーターといいます。エデュケーターではありません。子どもたちの好奇心をリードする、という意味です。ナビゲーターには、理数の専門教育を受けているとか、知識が豊富であるとかについてはあまり問いません。子どもたちのコミュニケーションが大好き、子どもたちに何か伝えたいという気持ちが大きい、子どもから好かれる笑顔をもっているなど、ヒューマンスキルが高い、というのが採用条件の一つです。

子どもに接するときには、疑問を引き出す問いかけが一番大切に行っています。「？」を「！」に変えることがベースなんです。そのためにも、まず、「なぜ」という疑問を抱かせる。子どもは、そのとき初めてその答えを知りたがったり、次のステップに進む気になったりするからです。修学旅行や校外学習などもたくさん受け入

●習った知識をどう生かす？

最近、先生方に評価いただいている展示は、小学校5年生の理科の「天気とその変化」という単元に対応したものです。雨はなぜ降るのかを理解するために、水蒸気を操って、一連の水の循環を体験できるという展示をつくりました(P19参照)。企画当初のヒアリングで出たのは、この単元は授業に関心を向けにくいという声でした。子どもたちはテレビの天気予報をよく見ていて、先生顔負けなほどにいろいろなことを知っているんですが、それに対して、この単元ではダイナミックな自然現象のメカニズムに迫るのではなく、暗記中心の内容という背景があったんです。

それでは、この展示では、学年間の学習の連続性を結びつけてみました。4年生で固体、液体、気体という「水の三態」を習っているにもかかわらず、5年生の「天気とその変化」では、天気図の見方や台風の進路などが中心です。4年生でせっかく習った水の三態という知識が、5年生で「雨はなぜ降るか」、「天気は水の状態変化で変わる」というところに結びつかない。中学まで「水の三態」は出てこないんですね。この展示で、せっかく習った知識が生かされず別の話になっているという不連続性を補い、体感しながら理解を深めようというねらいです。

●学校への支援で理数好きな子をふやしたい

ずっと変わらない一番の目標は、リスーピアを学校の授業で活用いただくということです。学校からの声で大きいのは、実験などをたくさんしたいけれども、なかなかできない。その単元を膨らませて見せてくれるような展示やワークショップがほしいということです。ですから、単なるアトラクション施設ではなく、きちんと学校現場、授業の単元と結びつくことを意識した展示をつくり、学校の授業を支援できるように趣向を凝らしています。

また、各展示が身近な事例に必ずつながるようにしています。放物線の焦点について、ボールがはねる様子からパラボラアンテナの仕組みにつながるなど、学校の授業で学ぶ理数が現実生活にどう結びついているかということですね。原理を学んで終わると「お勉強施設」ではなく、展示を体験しながら身近な現象や物に目を向けることで、理数に現実味をもつ手助けをしたいのです。

今後、学校への出張授業や出張実験などももっとやっていきたいですね。学校にも大いに活用していただき、理数が好きなお子どもがふえることを願っています。

Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

◆教育現場での若い教師の共通の悩みは「学級づくり」にあると言われて久しい。「ほっとな出会い」中竹竜二氏の姿勢は、この悩みに答えるキーワードと受けとめています。ぜひ若い教師に読んでいただき、「やる気」を出してくれることを期待します。(青森県 久保 富男) ◆服部幸應さんの巻頭インタビュー、食卓を囲むことは、規範意識を高める場でもあり、見直すべき問題である。食育の意義、食べ残しの多さについて考えさせられた。(千葉県 河西 泰道) ◆知っておきたい教育NOW「小学校英語活動の在り方」で、道徳性との関連に触れていることに共感します。また、世界きょういく見聞録の「アメリカのPTA活動」の具体的提案は貴重な報告だと思います。(北海道 元中学校長)

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。